

〈2〉リンク栃木ブレックスの挑戦

都市魅力創造課（株式会社栃木ブレックス派遣）

主事 増淵 慎也

1 はじめに

栃木県には7つのプロスポーツチームが存在している。全国的にみても、これほど多くのプロスポーツチームを抱える都道府県は珍しいだろう。その中でも、宇都宮市をホームタウン（活動拠点）としているチームは3つある。プロサッカークラブの「栃木SC」は2017年シーズンでJ2への復帰を決め、2018年シーズンからより一層の盛り上がりが期待できるだろう。プロサイクルロードレースチームの「宇都宮ブリッツェン」は、平成29年に開催されたジャパンカップサイクルロードレースでチーム初となる表彰台を獲得し、チームに勢いが増している。

そして、プロバスケットボールチームの「リンク栃木ブレックス」（以下「ブレックス」という）も宇都宮市をホームタウンとするチームの1つだ。ここでは、平成30年でチーム設立11年目を迎えるブレックスのこれまでの取組や今後の展開について述べていきたい。

2 チームの設立

ブレックスは平成19年に設立されたチームであるが、設立までには長い道のりがあった。

平成16年に初めて栃木県内でプロバスケットボールチーム設立に向けた活動が有志によって始まった。平成17年9月には、日本バスケットボール協会が新リーグ（JBL）となるプロリーグ設立委員会を設置した。同年12月には、「栃木県にプロバスケットボールチームを作る会」が結成され、この新リーグ参入に向け、15,000人の署名を集めた。その後、準備会社として「ドリームチームエンターテインメン

ト栃木」を設立し、平成18年に新リーグへの参入を申請したが、この申請は却下され、活動休止を余儀なくされた。ところが、新リーグの下部リーグ（JBL2）の設立が検討されたため、今度はその下部リーグへの参入を申請した。チーム設立の動きも再開し、メインスポンサーも内定した。こうして平成19年にリーグへの正式加入が決定し、チーム設立を成し遂げたのである。

そもそも、ブレックス（BREX）というチーム名の由来は、BREAK THROUGH（現状を打破する）という言葉の発音からつくった造語であるが、BasketballのREX（ラテン語で王者）で、バスケットボールの頂点をめざす（B-REX）という意味も込められている。明確に日本一をめざすことをチーム名に刻んでチームがスタートしたのである。

平成20年には、日本人初のNBA（アメリカで展開している世界最高峰の男子プロバスケットボールリーグ）プレイヤーである田臥勇太選手もチームに加わるなど、多くの注目を集め、同年にJBL2で、平成22年にJBLでそれぞれ優勝を果たした。

3 B.LEAGUE 初代王者

(1) B.LEAGUE 開幕

JBL（平成25年以降はNBLに名称が変更）での優勝を果たしたブレックスであるが、日本には、当時bjリーグというもう1つのリーグが存在した。つまり、JBL王者とbjリーグ王者の2つの日本一のチームが存在していたことになる。こうした状況から、この2つのリーグを統合し、本当の日本一のチームを決める新たな男子プロバスケットボールリーグが平成28年に発足した。それが「B.LEAGUE」（以下「Bリーグ」という）である。このリーグはB1、B2にそれぞれ18チームが在籍し、東・

中・西の3地区に分かれ、全60試合のレギュラーシーズンを戦う。Bリーグ開幕は非常に大きな注目を集め、開幕前から多くの選手がメディアに取り上げられ、バスケットボール界の今後に期待が高まっていたといえるだろう。

(2) 初代王者

Bリーグのファーストシーズンでは、ブレックスはB1東地区に所属し、レギュラーシーズンの開幕戦を迎えた。残念ながら秋田ノーザンハピネッツとの開幕戦を黒星でスタートすることとなったが、その後勝利を重ね、全60試合を終了した時点で、46勝14敗という成績で東地区首位となり、49勝11敗で同じく中地区首位となった川崎ブレイブサンダースに続き全体の2位でチャンピオンシップに進出した。

チャンピオンシップでは、準々決勝で千葉ジェッツと、準決勝でシーホース三河と試合を行い、いずれも接戦を制し決勝進出を決めた。

決勝戦は、東京の代々木第一体育館で開催され、10,000人を超える観客を動員した。対戦相手はレギュラーシーズンを1位で突破した強豪の川崎ブレイブサンダースであったが、会場を訪れた観客の多くは、ブレックスのチームカラーであるイエローのTシャツを着用しており、会場内はホームアリーナを思わせる雰囲気



写真1 多くのファンが集まった代々木第一体育館
栃木ブレックス撮影

があった(写真1)。

試合は終始互角の展開で、第1クォーター(以下「Q」という)を21対21の同点としたが、第2Qはブレックスのディフェンスが上手く機能し、前半を43対37とブレックスが6点リードで終えた。後半の第3Qを迎えると、前半のリードで勢いに乗ると思われたブレックスにミスが目立つようになり、相手チームの得点を阻止できず、終了時には59対63と4点のリードを許してしまった。最終第4Qに入ると、ブレックスは一転して激しいオフェンスで相手チームのディフェンスを崩し、残り7分10秒で68対67と逆転に成功した。この後の展開はまさに一進一退となり、残り2分を切るまで1点を争う攻防が続いた。相手チームがシュートを決めれば、ブレックスも仕返しとばかりにシュートを決めた。残り1分7秒でブレックスが3点のリードをつけると、その後はブレックスが固いディフェンスからの素早いオフェンスで確実に点を重ね、ついに85対79で勝利し、Bリーグ初代王者に輝いた(写真2)。



写真2 優勝トロフィーを掲げる様子
栃木ブレックス撮影

4 地域に密着したチームづくり

(1) 地域貢献活動への取組

Bリーグ初代王者となったシーズンの1試合

当たりの平均観客動員数は3,356名とリーグ全体でも2位となった。まだまだサッカーのJリーグなどと比較すると少ないかもしれないが、多くのファンがブレックスを支えているといえるだろう。実際に前述のとおり、チャンピオンシップの決勝戦は、東京で開催されたにもかかわらず会場内は多くのブレックスファンで溢れていた。多くのファンを集める要因の1つとして地域貢献活動の実施があげられる。

ブレックスがチームとして活動していくうえで掲げているビジョンの1つに、「地域密着で栃木県を元気にして盛り上げるチーム」があげられる。日本全体のバスケットボールへの貢献を視野に入れながらも、ホームタウンである栃木県に根ざすチームとして、地域を活性化し、盛り上げていけるチームであり続けたいとの思いからである。

ブレックスでは、年間300回以上の地域貢献活動を実施しており、チーム設立時から通算すると、その回数は2,900回を超える（平成30年1月末現在）。この活動のすべてに選手が参加しているわけではないが、専属チアリーダーであるブレクシーやチームキャラクターのブレッキーなども多くの活動に取り組んでいる。

(2) BREX SMILE ACTION

地域貢献活動ではバスケットボールの普及活動はもちろんのこと、幼稚園・保育園や福祉施設への訪問、講演活動、地域のお祭りやイベントなどへの出演にも取り組んでいる。

その中でもチームとして大きな活動の1つに「BREX SMILE ACTION」（以下「スマイルアクション」という）がある。これは、地域が必要としていることに耳を傾け、考え、行動し、地域の方々と共に行う活動で、その活動を通じて関わるすべての人が笑顔になることを目的としている。

スマイルアクションは、「子どもとコミュニ

ティ」、「環境保全」という主に2つのアクションから成り立っている。

「子どもとコミュニティ」については、子どもと地域のコミュニティ創出へ向けて、地域総ぐるみで行うコミュニケーション活動の促進をめざしている。現在は、小中学校の校門で子どもたちや地域の方と元気にあいさつをする「あいさつ運動」を中心に活動をしている（写真3）。

「環境保全」の活動としては、ホームゲーム時、会場内にエコステーションと呼ばれるスペースを設け、観客へのゴミの分別の呼びかけを行っている。また、試合会場周辺を中心として、スタッフとファンが協力して清掃活動にも



写真3 学校でのあいさつ運動の様子

栃木ブレックス撮影



写真4 清掃活動の様子

栃木ブレックス撮影

取り組んでおり、これらの活動を通じて、栃木県の環境保全と環境問題への意識向上をめざしている（写真4）。

ブレックスはコート内でのプレーはもちろん、こうした地域貢献活動への取組も含め、コート外においても他チームの模範になろうと努力を続けているのである。

5 初代王者として

現在、Bリーグはセカンドシーズンを迎えている。ブレックスにとっては初代王者として連覇のかかった重要なシーズンである。ブレックスは昨シーズン同様B1東地区に所属となったが、この東地区は昨シーズンのチャンピオンシップに進出した全8チーム中5チームが所属する激戦区となった。チームとしては合計5名の選手がチームを離れ、ヘッドコーチも変更となるなど、大きな変化を迎えてこのシーズンをスタートした。

平成29年9月29日に開催された開幕戦では、前シーズンのチャンピオンシップ準決勝で対戦した強豪シーホース三河に勝利し、白星スタートを切ることができたが、その後敗戦が続く、開幕から9試合が終了した時点で2勝7敗と苦戦を強いられ、東地区で最下位にまで落ち込んでしまった。その後、ヘッドコーチが体調不良により退団し、新たなヘッドコーチを迎えて再スタートを切った。新体制となってからは、徐々に成績が回復し、36試合を終えた時点で、19勝17敗と勝ち越しに成功し、東地区最下位も脱出した。

Bリーグ初代王者として挑む今シーズン。スタートこそ厳しい状況が続いてきたが、まだまだ連覇の可能性は大いにあるといえる。ブレックスの今後の巻き返しに期待したいと思う。



写真5 ブレックスアリーナ宇都宮での試合の様子
栃木ブレックス撮影

6 おわりに

Bリーグが開幕し、日本バスケットボール界は、これからさらに大きく成長していかなくてはならない時期にあるといえる。ブレックスは、自分たちのチームだけでなく日本バスケットボール界全体の今後の発展をリードしていきける存在であり続けたいと願っている。そのためにも、Bリーグでの連覇はもちろん、会場を訪れてくれる多くのファン、そして地域貢献活動等の取組を通じて出会った多くの人々との繋がりを大切に、チームの理念として掲げる、「強く愛されるモチベーションあふれるチーム」となることを今後もめざしていく。